



F-wave

藤沢市市民活動支援施設情報誌「エフ・ウェーブ」

特集：せっけんではじめる SDGs



近年、環境問題ほか、SDGs（持続可能な開発目標）達成のために企業や行政などが取り組む様子がニュースなどで取り上げられますが、SDGsが唱えられる前から、多くの市民団体が諸問題に取り組んでいます。

今回は、その中で「海の豊かさを守ろう」というゴールにつながる、せっけんの使用の推進に取り組む藤沢市せっけん推進協議会（以後：せっけん推進協議会）の前会長の手塚弘子さんと現会長の篠原貴代美さんにお話を伺いました。

手塚さんの合成洗剤の問題との出会いは、子どもと一緒に見

に行った金魚の実験だったそうです。「合成洗剤を入れた水槽では、プカーとひっくり返って死んでしまっているのに、せっけんを入れた濁った水槽では、金魚が元気に泳いでいるんです。とても衝撃を受けたので、その時の様子は、今でも鮮明に覚えています。家に帰って、台所で、実験で使っていた合成洗剤を目にした時はさらに驚き、思わず投げ捨てました。それで、合成洗剤のことをみんなに教えてあげないといけない！と思ったんです！」と当時のことを熱く語ってくれました。（つづく）



特集：せっけんではじめる SDGs

手塚さんは、合成洗剤の危険性を市民に伝え、合成洗剤追放のための制度をつくるために、大きく動き出した仲間に加わり、一緒に活動を開始しました。当時、引地川に洗剤の泡が立ち、市民にとって身近な問題だったため、共感する人は多くいたようです。しかし、せっけんに切り替えてくれる人は思ったより少なかったそうです。「このままではいけない」と思った手塚さんたちは、洗剤について考える市民の声が反映される協議会の必要性を訴え、要望書を藤沢市長へ提出をしました。この活動により、せっけん推進協議会の前身となる藤沢市洗剤対策協議会が発足しました。

せっけん推進協議会は、発足から現在まで、生活者の視点からせっけんの使用を推進してきました。学校施設や公民館などで学習会、ワークショップや講演会の開催、またせっけんメーカーやせっけんに関わる団体や企業と市民が集える「せっけんまつり」などに取り組んでいます。子ども向けの学習会の後で「お母さんはせっけんを使うのは面倒臭いから使わないって言うけど、僕はせっけんの歯磨き粉を買って使おうと思う」と言ってくれた少年がいたそうで「自分で考えて、使うものを選ぶようになってくれたらいい」と篠原さんは言います。

1986年、藤沢市は市内の学校給食施設で使用する洗剤を全てせっけんに切り替えました。これは全国ではまだ珍しいことで



とても貴重とのこと。切り替えるにあたり、給食施設で働く方々からは、「排水路にでるカスが残るため掃除がたいへん」という意見がありましたが、「すくって取れば問題もなく、汚れが海や川に流れなくてよかった」「手袋を使わなくても手荒れがしないことから、せっけんが安全なものであることを実感した」などの意見がありました。また、「子どもたちが毎日食べる給食だから、せっけんを使用していることは、安心につながる」という保護者の声も寄せられました。

6月21日には、「プラザ de カフェ 身近な SDGs せっけんの魅力再発見!!」を市民活動プラザむつあい主催事業として実施しました。せっけんについての話、天然素材を使ったせっけんとバスボム（入浴剤）のワークショップを行い、参加者からは、「合成洗剤とせっけんの違いが分かった」「終わった後、手を洗ったら、手の調子がすごくいい。」「少しずつでもせっけんをくらしに取り入れたい」という声があがり、私たちも環境問題の解決に貢献できたように思います。

7月14日まで藤沢市役所のロビーにて、せっけん推進協議会主催の「せっけん展」が開催されています。興味のある方はぜひ訪ねてみてください。

（取材と記事作成：市民活動プラザむつあい）



6月21日（火）プラザ de カフェの様子

団体紹介

藤沢市せっけん推進協議会

設立：1981年

会長：篠原貴代美

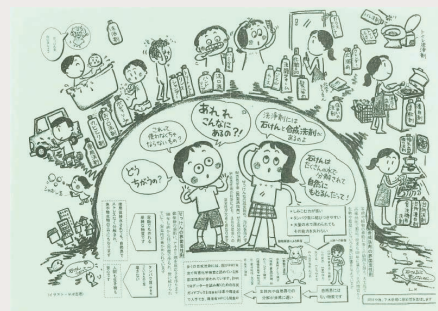
連絡先：sekkensuisin@gmail.com

せっけんを使用することで命を守ることが推進する市民団体。昨年で設立40周年を迎えました。

市と連携し、合成洗剤及びせっけんに係る諸問題について検討を行い、せっけん使用を推進することを目的として活動しています。

主な活動は、せっけん推進だよりの発行、合成洗剤とせっけんの違いや使い方のリーフレットの発行、小学校を中心とした教育機関や公民館での学習会、講習会の実施、公民館まつりへの参加、イベント

を開催など。



F-wave5月号では団体のPR動画の長さについて取り上げました。動画は団体の活動内容や雰囲気を伝えるのにとても有効な方法です。1分半程度の団体紹介動画があると、インターネット上での広報活動はもちろんのこと、講演や助成金のプレゼンなど、さまざまな場面で活用することができます。そこで今回は動画を作るために用意するものとその際の注意点について紹介します。

動画作成のための4つの準備

動画を作るに当たり必要なものは次の4点です。①作りたい動画のイメージ、②撮影機材、③編集するための機械、④編集を行うソフトです。

まず、「どんな紹介動画を作りたいか」というイメージを用意します。最初に自団体のどんなところを見てもらいたかを考えるのがオススメです。それがその団体の良さであり、これを中心に、取り組んでいる課題や、動画を見た人に取ってほしい行動な

どを並べていきます。細かい技術や流れの型のようなものはありますが、

次に撮影をするための機材です。スマホをお持ちの方は、基本的にそれで事足りります。すでに長いこと使っており、動作や電池の保ちが悪いという場合は難しいかもしれませんが、まだそれなりの使用期間で性能もそこそこのスマホであれば十分な映像を撮ることが可能です。このスマホや、他にパソコンをお持ちであれば3つ目の編集機材の準備も問題ありません。

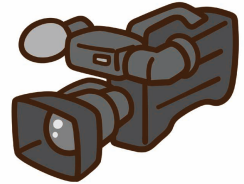
最後の編集を行うためのソフトですが、現在は無料で使えるものが多数作られています。字幕が入れやすかったり、簡単な操作でプロが作ったような動きをつけられるなど、様々な特徴がありますので、作りたい動画のイメージに合わせて選びましょう。

動画作成における注意点

以上のように、スマートフォンが1つあれば無料で簡単に団体紹介の動画を作成で

きます。ただし注意しなければならないこともあります。それは使うソフトやアプリによって権利関係が生じるという点です。作った動画をYouTubeなどで流していいかどうかなど、使用できる範囲がソフトごとに決められていますので、その点に注意をして選んでください。

尚、7月24日(日)より3週連続の動画編集講座をプラザで行います。初回にこの権利関係についても触れますので、これから動画の作成を検討される団体の方はぜひご参加ください。2回目と3回目ではお薦めのスマホアプリやパソコンソフトの操作方法が学べます。詳細は4面の今後の予定をご覧ください。(林)



バングラデシュとネパールの女性たちによる石けんづくり



今回の特集記事を読んでいて、2015年の夏に出会った、天然石けんづくりに挑戦したバングラデシュとネパールの女性たちのプロジェクトを思い出しました。彼女たちは、一家を支える収入を得る必要がありながら、現金収入がほとんどない状況下で試行錯誤し、南アジアに古来から伝わるアーユルヴェーダ(インド大陸の伝統的医学)で使用されてきた自然素材を使った天然石けんづくりにたどり着きました。しかしながら、立ち上げた工房で生産された天然素材石けんは、独学で学んだ手法で生産していたため、品質のばらつきや虫などの不純物の混入などがあり、生産コストに見合った収入にならないことや、そもそも買い手がつかないという事態に陥っていました。その状況を知ったフェアトレード商品を多く扱っている日本のNGOであるシャプラニールは、日本で販売をするためのプロジェクトを立ち上げ、本格的に価値ある商品の開発に取り掛かることにしました。まずは品質と安全性の確保のために、天然石けんの生産では70余年の実績を持ち、国内屈指の老舗企業の一つである太陽油脂株式会社に相談しました。その後現地に行った太陽油脂の担当者は、「石けんづくりはシンプルで、基本的な作り方は世界共通。生産工程と生産環境の改善と維持ができればきっと良質な製品ができる。」と

言ったそうです。そこから現地の石けんづくりプロジェクトは大きく動き出します。現地では、工程管理や生産工房の環境整備等、細部にわたり具体的なアドバイスをし、帰国後も関係資料を現地に届けたそうです。確かなサポートを受け、彼女たちの意識の高まりと比例して、品質の向上と安定は徐々に高まり、販路の確保につながりました。彼女たちの石けんは「She」というブランド名で、現地の飲食店やホテルなどで扱われるほか、日本でも販売が始まりました。さらに、オーストラリアやアメリカ、スウェーデンにも取引が拡大していき、生産者である彼女たちの収入も確実に生活を支える収入に近づいてきました。そして何よりも大きかったのは、自分たち自身に自信を持つことができ、家庭やコミュニティでの地位の向上も見られ、人生が変わったことではないかと思うのです。残念ながら生産者と逢うことはできませんでしたが、このプロジェクトを支えた皆さんは、口をそろえて彼女たちの向上心と粘り強さに感銘を受けていました。さらに支えた皆さんの緩やかな関係性も築かれており、100%天然素材の石けんという共通価値を通じた地球規模の卓越した協働事業を目の当たりにした瞬間を今でも忘れることはできません。(て)

講座・イベントの

ごあんない

イベント

日時

■動画編集入門講座～団体紹介動画をつくろう！～	7月24日・31日・8月7日	10:00～12:00
■夏ボラ募集を始めよう！ チーム FUJISAWA2020 説明会	7月20日(水)	14:00～15:00
■IT サポート講座「今更ながら Windows の使い方」	7月25日(月)	13:30～16:00
■NPO法人条例指定制度指定申出期間	7月11日(月) ～	8月10日(水)

NEW!

支援施設からのお知らせ

■動画編集入門講座～団体紹介動画をつくろう！～

動画編集入門講座～団体紹介動画をつくろう！～

動画編集の方法を学びます。初めての方を対象とした入門講座です。初回に動画編集の全体像を紹介し、2回目ではスマホ、3回目はパソコンを使った編集ソフトの使い方を学びます（2回目と3回目はどちらか1回の参加でも大丈夫です（両日も可））。ソフトは無料で使えるものを扱います。

日時：7月24日、31日、8月7日（日） 10:00～12:00

会場：六会公民館 2階 第1談話室

料金：無料

講師：林 純（市民活動プラザむつあい 室長）

対象：市民活動を行っている団体や個人、ご興味のある方

定員：15名

■夏ボラ募集を始めよう！ チーム FUJISAWA2020 説明会

夏休みの学生など、特に若年層がボランティアを始める際には、インターネット上での情報収集が当たり前の時代。藤沢市のボランティアウェブサイト「チーム FUJISAWA2020」で、ボランティア募集や自分たちの活動紹介をしてみませんか。今回、ウェブサイトの登録方法や機能について説明会を行いますので、是非お気軽にご参加ください！

日時 2022年7月20日（水）14:00～15:00

会場 市民活動推進センター会議室 A・オンライン

内容 サイトの登録方法等

定員 会場 10名

料金 無料

対象 チーム FUJISAWA2020 登録希望団体及び登録希望者



■IT サポート講座「今更ながら Windows の使い方」

2021年10月に「Windows 11」が登場しましたが、「Windows 10」はまだ現役！多くのPCにインストールされているWindows 10の、今だからこそ知りたいあれやこれやをお伝えします。使い方を学びたい方、WindowsのPCをお持ちの方におすすめの講座です。

日時 2022年7月25日（月）13:30～16:00

会場 市民活動推進センター会議室 A

内容 Windowsの解説、できること等

定員 先着 10名

料金 1,000円

対象 NPO・市民活動・地域活動に関わっている方

講師 藤沢市市民活動支援施設サポートクラブ IT サポーター

持ち物 Windows10の搭載されたノート PC（アダプタ・マウス含）



■NPO法人条例指定制度指定申出を受け付けます

本市では、市内で活動するNPO法人を支援する仕組みとして、個人市民税の寄附金税額控除の対象となる寄附金を受け入れるNPO法人を条例で指定する制度を実施しており、条例指定の対象となるNPO法人の申出を受け付けます。

なお、2022年1月以降に寄附された寄附金が税額控除の対象となります。

※詳細は市HPをご覧ください。

申出期間 2022年7月11日（月）～8月10日（水）

申込・問合せ 市民自治推進課（TEL:0466-50-3516）

発行：藤沢市市民活動支援施設

本館：市民活動推進センター

開館時間 9:00～22:00 火曜休館

〒251-0052

神奈川県藤沢市藤沢 1031 GRAFARE FUJISAWA 2F

※ビル名が変更になりました

TEL:0466-54-4510 FAX:0466-54-4516

Eメール: f-npoc@shonanfujisawa.com



分館：市民活動プラザむつあい

開館時間 9:00～19:00 月曜休館

〒252-0813

神奈川県藤沢市亀井野 4-8-1 六会市民センター 2階

TEL&FAX:0466-81-0222

Eメール: f-npoplaza@shonanfujisawa.com

URL: http://plaza6i.f-npon.jp/



編集：認定NPO法人 藤沢市市民活動推進機構（藤沢市市民活動支援施設 指定管理団体）

※この情報誌は、サポートクラブのメンバーのご協力により、皆さまのお手元に届いております。サポーターも随時募集中です！